



そのき



令和3年10月18日(月)
新潟市立曾野木小学校 学校だより
第271号
<http://www.sonoki-e.city-niigata.ed.jp/>



予測困難な近未来を生き抜くための力の育成を目指して

校長 保坂 章夫

今から約45年前。タイムボカンシリーズやガッチャマンで知られるタツノコプロが制作したSFテレビアニメ『新造人間キャシャーン(全38話)』がフジテレビ系で放送されました。

ある日、東光太郎博士が開発を手掛けた公害処理用ロボット・BK-1が落雷の衝撃を受け、自我に目覚めてしまう。公害の元凶となっている人間を処理すべきと考えるようになったBK-1は、ブライキングボスを自称して戦闘ロボット軍団(アンドロ軍団)を作り上げ、世界征服を開始する。東博士の息子の鉄也は、二度と人間に戻れない覚悟で人間と融合して完成する不死身の「新造人間」(ネオロイダー)キャシャーンとなり、ロボット犬・フレンダーや恋人のルナとともに、アンドロ軍団に立ち向かう。

(フリー百科事典『ウィキペディア』から引用)

当時、小学生だった私は、パソコンや携帯電話が今のように生活の一部となる時代が来るとは想像もできませんでした。ましてや、テレビアニメのようにロボットが人間の言葉を理解したり、論理的な推論を行ったり、経験から学習したりすることが現実のものとなるなど思いもしませんでした。しかし、それがまさに現実となりつつあります。

AI(人工知能)やロボットが、加速度的に進化している昨今。その活躍の場は広がり、やがてはAIやロボットが人間にとって代わるため、実際に無くなってしまふ職業がたくさん出てくることが予想されています。このように、目の前の子どもたちが活躍する2030年の近未来は、想像以上に大きな変化が待ち受けています。そのためにも、これからの時代を生き抜くためには情報活用能力の育成が必要不可欠となっています。

曾野木小学校では、コロナウイルス変異株(デルタ株)での感染拡大もあり、夏休み明けの全校朝会から、体育館での全校集会をZOOMアプリを使って行い始めました。また、各学年・学級ごとにZOOMを使ってのオンライン学習を行うことができるよう準備を進めています。これからも、子どもたちが主体的に情報機器を使用しながら、自分の考えをまとめるための資料収集を行ったり、友達との意見交換に活用したり、発表・説明資料作成に役立てたりできるようにしていきたいと思ひます。